

2021年のスーパーフォーミュラ選手権開幕。国本雄資が力強い走りでポイント獲得 2021 全日本スーパーフォーミュラ選手権第1戦レポート

| | | | |
|-------|--|---------------------|--------------------|
| 開催日程 | 2021年4月3日(土) / 4日(日) | 開催場所 | 富士スピードウェイ(4.563km) |
| 大会名称 | 2021年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第1戦(41周 / 参加台数:18台) | | |
| 天候/気温 | 4月3日(土): 曇り / 20°C | 4日(日): 曇り一時雨 / 17°C | |
| 観客動員数 | 4月3日(土): 7,800人 | 4日(日): 11,300人 | 計 19,100人 (主催者発表) |



世界中で猛威を振っている新型コロナウイルス。2020年はその脅威の中で、できる限りの対策を施し、全日本スーパーフォーミュラ選手権は全戦を展開した。新たに迎える2021年シーズンは、4月上旬に開幕。昨年同様に徹底した感染拡大防止策を施し、10月下旬までに全7戦が予定されている。今シーズンは1年ぶりに予選日、決勝日の2Day開催が復活。まだ制限はあるものの、富士スピードウェイには2日間で2万人近いモータースポーツファンたちが集まった。

国内トップフォーミュラへの参戦が今年で12年目となるKCMGは、昨年同様に2台体制で新たなシーズンに挑む。カーナンバー「7」をまとって戦うのは、チーム5年目となる小林可夢偉。カーナンバー「18」は国本雄資と、昨年同様のラインナップ。チームには新たなスタッフを加え体制を強化し、就任3年目となる松田次生監督のもとシリーズチャンピオンを目指して戦う。

なお小林は、IMSА ウェザーテック・スポーツカー選手権への参戦後、帰国・自主隔離の期間と重なってしまったため開幕戦は欠場。代役として、昨年全日本スーパーフォーミュラ・ライツ選手権シリーズ3位の小高一斗がスーパーフォーミュラデビューを飾ることとなった。

【予選】

天気:曇り / 気温:20°C / 路面コンディション:ドライ

| | | |
|----------|------------------------|----------------------|
| #7 小高一斗 | Q1A 組: 7 位 / 1' 23.123 | Q2: 14 位 / 1' 29.988 |
| #18 国本雄資 | Q1B 組: 5 位 / 1' 22.644 | Q2: 12 位 / 1' 22.973 |

いよいよ幕を開けた2021シーズンのスーパーフォーミュラ。2Day開催に戻ったことで、予選の行われる4月3日(土)は午前中にフリー走行セッションが設けられた。富士スピードウェイではわずか1週間前に公式テストが行われたばかりだったが、そのデータをもとに、さらに1000分の1秒を削るため、この1時間30分でマシンを仕上げていく。小高、国本ともにセッティング調整とチェックランを重ね、セッション終盤の予選アタックシミュレーションでは小高が1分22秒510、国本が1分22秒565をマーク。2台ともトップとのタイム差は約1.4秒ついており、予選のQ1突破も難しい順位になっていたが、本番では揃って挽回する姿を見せることになる。

曇り空の下、午後2時40分からQ1A組のセッションがスタートした。KCMGからは、小高がA組で出走。まずはセッション開始と同時にコースインしてマシンの状況をチェックすると、ニュータイヤを装着してアタックへ。すでに他のドライバーはアタックに入っており、小高は最後にコントロールラインを通過してアタックを開始した。ターゲットタイムは#15 大津弘樹選手の記録した1分22秒263だが、どのドライバーもこのタイムを更新できず、最後の小高に注目が集まる。アウトラップと2周のウォームアップで入念にタイヤを温めた小高は、1分23秒123をマーク。ディフェンディングチャンピオンの#1 山本尚貴選手を退け、見事7番手でQ1突破を果たした。

10分間のインターバルを挟んで、Q1B組に国本が出走。小高同様にチェックラップの後にピットに戻ると、ニュータイヤに履き替えてアタックに向かった。2周のウォームアップ後にたたき出したタイムは1分22秒644。小高よりも約0.5秒速いタイムを記録した。このセッションでは全体のトップタイムもA組より速かったが、国本は5番手でQ1突破。KCMGは2台揃ってQ2へと駒を進めることに成功した。

14台で争われるQ2は午後3時20分にスタート。9台が出走するQ1と比べてコース上のトラフィックにも気を配らなければならない難しいセッションで、国本は1分22秒973と、Q1のタイムを更新できずにチェッカー。Q3進出はならず12番グリッドが決定した。小高は1分24秒763をマークしたが、走路外走行違反のペナルティによりこのタイムは抹消。ウォームアップ中のタイムだった1分29秒988が採用され14番手に。Q1では好走を見せたものの、苦しい予選結果となった。

【決勝】

天気:曇り一時雨 / 気温:17℃ / 路面コンディション:ドライ～セミウェット

#7 小高一斗: 15位 / #18 国本雄資: 8位

決勝日の天気予報は下り坂。レース中の天候を見越して、どのようなセッティングで走り出すのか。KCMGの2台は最後の最後までグリッドで入念に話し合っていた。結局心配されていた雨はレース終盤まで落ちてくることはなかった。

午後2時10分にフォーメーションラップが始まり、スターティンググリッドに戻ってくると41週の決勝レースがスタート。スタートダッシュに定評のある国本は抜群の蹴り出しを見せると、1コーナーでは周りのマシンがアウト側で熾烈なポジション取りを繰り広げている横をコンパクトにすり抜けていき、さらにコカ・コーラコーナーから100Rへと続く中で発生した混乱もうまくかわして、7番手への大幅ポジションアップに成功した。一方小高は、初めてのハンドクラッチに手間取り痛恨のスタートミス。最後尾から前を追いかけていく展開となった。

国本は2周目、オーバーテイクシステムを使って目の前でバトルを繰り広げている#15 大津選手と#38 坪井翔選手に接近。ダンロップコーナーでは後方からブレーキングで差を詰めてきた#20 平川亮選手と共に#15 大津選手を挟む形でオーバーテイクし6番手に浮上した。

その後、#20 平川選手の先行を許し7番手に後退。アグレッシブな走りを見せていた国本だったが、マシンのペースには悩みながらの周回で、18周目には8番手となってしまった。レースも折り返し地点を迎え、徐々にタイヤ交換に向かうドライバーが表れる中、国本は27周を終えたところでピットイン。チームは素早い作業でタイヤ交換を済ませ国本をコースへと送り出す。見た目上は11番手に後退していたが、他と比べてアウトラップが数秒速く、ペースも良好。他車のアクシデントもあり、38周終了時点で国本は9番手まで順位を取り戻していた。

さらに39周目、それまで3位を走行していた#4 中山雄一選手が義務付けされていたピット作業へ向かい、これで国本は一つポジションを上げて8番手でフィニッシュ。12番手スタートから4つポジションを上げ、開幕戦で入賞を飾った。

痛恨のスタート失敗で出遅れてしまった小高は、その後ミスを挽回するべく力走。序盤は混乱にも巻き込まれることなく安定したペースで周回を重ねていった。24周終了時点でのタイヤ交換もスムーズにすませ、17番手でコース復帰。周囲では、ついに降り出した雨に足元をすくわれるドライバーが出てくる中、大きなミスなく41周を走り切り、15位でチェッカーを受けた。

2台揃っての入賞は果たせなかったものの、不安定なコンディションでアクシデントに見舞われるマシンが多かった中、KCMGの2台は冷静なレース運びでレースをフィニッシュした。次戦鈴鹿大会へはさらなる好結果を目指し、チーム一丸で臨む。

【ドライバーコメント】

#7 小高一斗

フリー走行ではあまり調子が良くありませんでしたが、予選は奇跡的にQ1を突破することができました。この勢いでさらに上のポジションを目指しましたが、Q2では自分のミスからタイム抹消のペナルティを受けてしまい、本当に悔しかったです。決勝では、ハンドクラッチでのスタートが初めての経験だったため、失敗してしまいました。レースを通してほかにもいくつかミスをしてしまいましたが、ペースとしては悪くなかったとチームにも言ってもらえて、悔しいレースではありましたがまずは完走できて良かったです。

今回は、スーパーフォーミュラ参戦というチャンスをいただけて、関係者の方々に本当に感謝しています。次に乗る機会をいただけたときには、今回よりもっといい結果を残せるよう、頑張っていきます。

#18 国本雄資

この週末は苦しい状況が続き、予選でもなんとかQ2に残ることはできましたが、タイムを削ることはできませんでした。決勝での挽回を目指して、得意のスタートから集中しました。結果、スタート自体もうまくなりましたし、1コーナーの位置取りも良くトップ10に着けることができましたが、クルマのバランス的に苦しく、前を追いかけるというよりは後ろを見ながら走るという前半ステイントになりました。

タイヤ交換は、チームがとても速く作業してくれましたし、アウトラップも速かったので争っていた相手よりも前でコースに復帰することができ、入賞圏内まで上がることができました。終盤に雨が降ってきたときにはペースが良く、最終的にはポイントを獲得することができたので、最低限の仕事はできたかと思っています。今回のようなレースを続けてしぶとく戦っていき、クルマが最高な状態のときに勝てる準備をしていければと思います。

次戦もいいレースができるよう頑張ります。

【監督コメント】

松田次生監督

まずは無事に開幕戦の富士大会を終えることができました。予選では2台とも苦戦し、Q3に進めなかったのは残念でした。

決勝では、国本が得意のスタートダッシュでポジションアップし、その後の戦略も上手くはまりました。チームのピット作業も非常に速く、みんなで練習してきたことが実を結んだと感じました。小高に関しては、初参戦の中Q2まで進んだのはよく頑張ってくれたと思っています。決勝ではいろいろありましたが、クルマを壊さず無事に完走し、ペースも安定して良かったので、次につながるレースでした。

国本がポイントを獲得できたことは良かったです。トップとの差はまだまだ大きいです。レース全体を考え、もっともっと強くなれる部分もあると感じています。クルマのポテンシャルを上げることはもちろん、チーム全体としてもっと高いレベルで戦えるよう頑張っていきます。今シーズンも応援よろしくお願いたします。

